

第1回今治市地域福祉計画審議会 会議録

日 時	平成 27 年 7 月 30 日 (木) 14:00～15:30
場 所	今治市役所 第2別館 11 階 特別会議室1号
次 第	1 市長挨拶 2 委員紹介 3 会長及び副会長の選出について 4 議事 (1)地域福祉計画の概要について (2)市民アンケート調査の結果について (3)意見交換 (4)今後のスケジュールについて 5 閉会
資 料	・次第 ・委員名簿 ・配席表 ・第2期今治市地域福祉計画の概要 ・市民アンケート結果のまとめ ・福祉関係団体アンケート結果のまとめ ・第2期今治市地域福祉計画策定スケジュール
出席者	(委員) 恒吉和徳 委員 上村友希 委員 片上修二郎委員 加藤孝子 委員 柳原能夫 委員 新居田利忠委員 川本登倭子委員 賀来英芳 委員 加藤朋子 委員 菅千代美 委員 結田静夫 委員 近藤健太郎委員 (今治市) 副市長 長野和幸 健康福祉部長 村上伸幸 福祉政策課 阿部課長、二宮係長 (株)ジャパンインタナショナル総合研究所) 谷内田研究員、藤田研究員

事務局	【第1回地域福祉計画審議会の開会】
副市長	【挨拶及び諮問】 本日、市長が公務のため松山市に出張となっていますので、出席できませんことお許し頂ければと思います。先般、皆様方に当審議会の委員のご就任をお願いいたしましたところ、快くお引き受け頂きましたこと、誠にありがとうございます。本日は大変暑い中、ご多用の中、ご出席頂きましてありがとうございます。 今治市は 12 市町村という大きな枠組みの合併を果たし、県下2番目の人口を有する都市として歩み始めてから今年で 10 年目の節目の年を迎えました。この 10 年間で今治タオルのブランド化、瀬戸内しまなみ海道を活かしたサイクリストの聖地としての取り組み等、地域一丸となって、地域資源を活かし、様々な施策を推進して参りました。しかしながら、本市を取りまく状況は厳しさを増しているのが現状です。合併算定終了後の普通交付税の減額や公の施設の見直し等、諸課題が山積しています。そして、何よりも大きな問題なのが人口減少、少子高齢化の急速な進展です。新聞に掲載されておりました通り、先日発表されました愛媛県の平成 27 年度高齢化統計人口によると、65 歳以上の高齢者は1万8000 人増加の 41 万 9554 人となり、過去最多となっています。今治市も高齢化率は 32%と愛媛県下の平均を上回っています。これから本格的な高齢化社会を迎えるわけですが、皆さんがお住まいの地域にも子どもから一人暮らし高齢者、障害を持たれる方の世帯、子育て中の世帯、生活困窮者等、何らかの支援を必要とされている方がたくさん暮らしています。このように地域の福祉ニーズには多種多様なサービスや活動が必要とされています。これらの課題に対し、地域住民の皆様と行政、福祉関係団体、民間事業者の方々が情報共有しながら共に知恵を出し合い、地域の実用に応じた自助・共助・公助の体制づくりを構築していこうとする取り組みこそが地域福祉の考え方ではないかと思っています。 本日は第1回目の審議会です。会長、副会長を選任頂いた後、先般実施した市民アンケートの結果説明を予定しています。私たち一人ひとりが故郷今治を愛し、守り育て、次に続く子や孫の世代にこの素晴らしいまちを引き継ぐことが今を生きる私たちに課せられた大切な使命だと思っています。審議会委員の皆様には幅広いご意見、ご提言をいただき、市民の誰もが住み続けたい、住みやすいと思える今治市の実現に繋がるような地域福祉計画になることを諮問させて頂き、挨拶とさせて頂きます。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

事務局	各委員を紹介し、挨拶をお願いする。
委 員	(各委員挨拶)
事務局	【会長・副会長の選出】 今治市地域福祉計画審議会規則第3条の規定により、委員の互選による旨説明。委員に意見を求める。
A 委員	事務局からの提案をお願いしたい。
事務局	会長を恒吉和徳委員、副会長を片上修二郎委員をお願いしたい。
委 員	(異議なし:拍手)
事務局	会長に就任挨拶をお願いする。
会 長	地域が抱えている問題は複雑化、多様化してきました。安心安全な地域を作るにはどうしたらいいかということで重要な会議になると思っています。皆様方から忌憚のないご意見をいただきながら、この会議が充実したものとなるよう努力していきたいと思いますのでよろしくお願いします。
事務局	副市長が退席する旨説明 (副市長退席)
事務局	会長に進行をお願いする。
会 長	【議事】 議事「(1)地域福祉計画の概要」、「(2)市民アンケート調査の結果について」事務局より説明を求める。
事務局	議事「(1)地域福祉計画の概要」、「(2)市民アンケート調査の結果について」説明する。
会 長	議事「(1)地域福祉計画の概要」、「(2)市民アンケート調査の結果について」質問等を求める。

副会長	地域福祉計画と地域福祉活動計画の違いを教えてください。
事務局	地域福祉計画は行政が策定する計画であり、地域福祉活動計画は民間の計画。地域の様々な生活課題に対して、地域住民や福祉関係団体等は、こういうことができるということを計画にしていくのが活動計画である。地域福祉計画は、行政として取り組む内容、地域住民や団体等と協働していく事項を書かせて頂く計画となる。
事務局	地域福祉計画は、地域福祉を進めるための自助・共助・公助という役割分担が大きい。活動計画は具体的に地域住民、民間団体等による自発的な行動計画である。社会福祉協議会が各地区に行ってワークショップを開かれ意見を収集されるのは活動計画である。すみわけが違うということ。
副会長	市は活動計画を作らないということか。
事務局	社協さんが行動計画を作られている。全国を見ると、一緒に作られている自治体もある。地域福祉計画と活動計画は地域福祉を推進するための車の両輪であり、双方連携を取りながら進めていくものである。
会 長	松山のように地域によっては一緒に作っている。具体的な活動の計画を作るのが活動計画であり、市が作る計画は方向性、理念になる。地域福祉活動計画で出された取り組みを市としてどのように推進していくかという内容になるのではないかな。社協では手の届かない部分を行政が率先してやるべきだということを計画に盛り込んでいくのだろう。一体となって展開されることが必要だと思う。
A 委員	私たちは受ける立場が多い。自助・共助・公助の役割があり、市役所が公助、社会福祉協議会は準公助だと思う。社会福祉協議会と市は、すみわけせずに、うまくやってほしいと思う。
副会長	共助は社協がやるべき、公助は市がやるべき。
A 委員	共助は地域という概念におけるお互いのものであろう。小学校区、自治会の関係がある。明治合併のときにあった部落単位あたりが共助の範囲。共助と公助をわけると、社会福祉協議会は公助に近い。準公助と言えると思う。

	質問だが、資料8ページの幼稚園児数の推移をみると、少子高齢化と言いながらあまり減っていない。市外からの園児も入っているのか。原因を教えてください。7ページ(年少人口の推移)について、少子高齢化と言いながら0～5歳人口があまり減っていない。6～11歳は1000人くらい差が出ている。最近の少子化対策がうまくいっているのではないか。努力のあとが見えていると思う。その点も含め8ページの原因を教えてください。2ページ、「住民座談会 7月より実施中」とあるが、7月はもう過ぎているが日が決まっているなら教えてください。
事務局	住民座談会の日程について、7月2日に富田地区、7月15日に菊間地区で実施。8月11日に今治地区、8月20日に日高地区、8月26日に大西地区、8月31日に大三島地区で実施予定
A 委員	地域活動参加者という表現だったが、座談会の参加者は誰が決めるのか。人数は何人か。
事務局	支所等に候補者の選考を依頼し事務局で決定する。幅広い年齢層の方々にご参加頂けるようにする。人数は30人前後。
事務局	8ページの原因について、定かではない。今治市子ども・子育て支援事業計画は昨年度策定したもので、その中の資料から引っ張ってきている。幼稚園の場合は、私立幼稚園が頑張っているのではないだろうか。保育所については、今治市は待機児童がいない。
B 委員	「2. 地域について」の日頃の付き合いについて、「あいさつをする程度でそれほど親しくない」が61.5%となっている。年代にもよると思うが、年寄りほどあいさつはよくしており、若い人ほど近所付き合いがないのだと思う。また、地域にもよると思う。郊外に行くと、ずっと住んでいる方がおられるため、近所付き合いがある。町中のマンションだとどういった人が住んでいるかもわからない。このアンケート調査はどのような年代の人が対象なのか。また、年齢層ごとの具体的な数値はどうか。
事務局	調査対象は18歳以上の市民の方である。61%とは市全体の数値であり、年齢層により数値も変わる。具体的な数値は、黄色の冊子(アンケート調査結果報告書)24ページに掲載している。
A 委員	民生委員の方の活動はどのようなものか。プライバシーの侵害もあり、踏み込めないと逃げてはいないか。民生委員の活動が見えてこない。

事務局	冊子に民生委員を知っているかどうか聞いているアンケート結果も載せている。民生委員の活動について周知をする必要性もあるのではないかなと思う。
副会長	要援護者や高齢者は民生委員を知っているが、そうでなければわからない。
C 委員	健康な人は関わりが少ないかもしれないが、いろんな形で関わりはある。
A 委員	私の地域で自主防災組織を作っており、近くのおばあさんがどこの部屋で寝ているか等、近所の方の情報を把握しているが、民生委員の方は把握していない。万が一、災害等があったとき、どこそこのおばあさんは1階で寝ているか、2階で寝ているか、知ることが必要。情報を整理することが必要。我々の地域は 51 世帯あるが、世帯については民生委員より我々の方がよく知っている。民生委員が変わったとき、引き継ぎをしてほしい。引き継ぎをすることがないような人が民生委員をしている。それが地域の実態である。プライバシーを理由に何もしない。もう少し頑張ってもらいたい。
C 委員	県の調査では、久万高原ではどこで寝ているかといったことを把握しているが、それはプライバシー等の問題を乗り越えて出来上がっているとのこと。地域によってできていないところは多い。そういうことも大切だという話はあるが、今治市がやろうという案までは出ていない。災害のときはとても役になったと久万高原の方から聞いた。民生委員のみならず、自治会、防災の方全体で解決していったとのこと。
A 委員	包括支援センターの方等、訪問をして知っている人もいる。そういうことを民生委員は統一的に記録しないのか。情報入手の積極性が必要、記録し、引き継ぎをしていくことを徹底してほしい。
会 長	会議の流れの中で既に意見交換の場に移っているが、民生委員の方の活動と地域をうまく調整し、どうすれば民生委員の方が活動しやすい状況になるのか。このあたりは行政が関与するところでもあるだろう。委員の皆様は日頃からいろんな立場でご活動されていると思う。地域で活動する上で、日々悩んでいること、こうしたらいいのではというご意見があれば自由に出して頂ければと思う。

D 委員	地域としてはなかなか厳しい。地元の町内会の役員になると隣の電気がつかないがどうしたのだろうという状況は日常茶飯事に起こるという状況である。今の現代社会(少子高齢化社会)として、自分が子どもの頃に受けた生活環境と今の生活環境は違うということをどの年代の人も踏まえて、対応しなければならないだろう。共助という言葉について、地元の人に「共に助けるのではない、共に生きることを考えてほしい」と伝えている。あなたは何かができるかというところまで話し込んでいけば、集落の事業に参加する、しないかところまでいく。日常生活で生活する上において、どんな課題があるのか、具体的などところを持たないといけないと思う。日頃は障害者の方の世話をしているが、相談活動に誰も来てくれない。行ったら恥ずかしいというのがあるようだ。我々としては、いかに障害者の方を外に出すかということがあるが難しい。見栄もあるが、老人の社会をいかにして共に生きるか、言える意見は全部言ってもらうことが必要な時代である。しかし、なかなか言葉には出してもらえない。個人個人からすると、行政はやってくれないという感覚が強くなってくる。どこに言えば話がまとまるのだろうか。
E 委員	民生委員はプライバシーや人権の問題で家の中まで入っていけないと聞く。長期で入院していても、その人が入院しているのか、どこに行っているのか民生委員はわからないと聞く。それならば、包括等に連絡すると、一緒に訪問することで家の中にも入っていけるため、包括に連絡してくださいと伝えて、一緒に訪問している。
C 委員	本当に助かっている。包括と一緒に訪問することで解決することもある。
E 委員	寝ている部屋がわかると民生委員のみならず、近所の方に夜見守りも兼ねて、電気がついていない、ポストに新聞がたまっていることがあれば連絡をください、とお願いして連携を取っている。
C 委員	夜見守りをし、電気がついていれば今日いるということがわかる。暑さで横になられていることもあり、訪問するのが申し訳ないということもあるため、電気のついていない、ついていないで確認する等、目に見えない活動もしている。
E 委員	この暑い時期なので脱水症状も起こしやすい。近くの方から民生委員の方へ連絡があり、病院に搬送されたという連絡もあった。

C 委員	見守り推進員さんも各地区にいらっしゃるため、何かあれば連絡が入ることになっている。
E 委員	去年、包括も2年目になり、認知の方も増えてきているため、地域ケア会議で、銀行、郵便局、警察の方にも集まって頂き、地域の困っていること、あったらいいことについて、ご意見を頂いた。最近、郵便局や銀行に認知症を受けた方が何回もキャッシュカードを作ってほしい、通帳をなくしたということで、訪ねてこられるとのこと。会議を通して、連携をとれることによってネットワークが少しずつできていると感じている。認知症に関しては、「いまからネット」の活用、「認知症サポーター養成」で緩やかな見守りもしている。認知症でなくても地域の見守り、ちょっとした買い物やゴミだしにも困っている方もおられるため、地域の方の緩やかな見守りがあると地域の中で生活ができる。包括の中には、社会福祉士、保健師、市民ケアマネージャーもいるため、ネットワークを強めていけるシステム作りを進めていきたい。
C 委員	民生委員も情報がほしい。何かあったときにどこへつないでいくか、連絡を取るかが大切。私たちは専門ではないため、つないでいく方に力を入れていく。民生委員のみならず、自治会、いろいろな方々で協力することが必要。民生委員よりもその地域の町内会の方がよく知っている。範囲が広いので、地域でいろいろな立場の人が1つになって会を開き、情報交換し、支えていく地域であってほしいと思う。
E 委員	自分の声を包括にあげて頂くと、包括でも連携を取っていくため、声をあげて頂ければと思う。
A 委員	3つ言いたいことがある。1つ目は包括の活動について。私自身、包括には、かなりお世話になった。介護認定の申請も手早くやってくれ、本当にすごいということをおきたい。そうしたすごいことの会議をやり、民生委員さんもそうした会議に行ってほしい。そこにはたくさんの情報がある。 2つ目、社協の地域福祉活動計画は、よくできている。市の計画概要についてもよくできている。アンケート結果を踏まえたものができてるだろう。 3つ目、介護保険、医療、財政的な負担が増え、日本、市がどうなるのかという状況になっている。包括には今のように頑張ってもらいたい。介護、包括など福祉の仕事は現場が大変。各課の状況を見て、濃淡を見て調整頂きたい。要員配置をしっかりと見直して頂きたい。長期的な展望を持ってご配慮頂かないと貴重な人材をつぶしてしまうだろう。

副会長	独居老人や高齢者は困ったときに相談する人がいない。普段から近所付き合いをし交流を深めると、相談する人可以。相談しないから独居老人になる。助け合える環境を作ることが大切だろう。困ったことをすぐに言える付き合いが大切。みんなが相談し合える、助け合える社会を作ることが大切
F 委員	サロン活動をしなくても出ていく人はいつも同じ。出て行かない人が問題。
C 委員	足がないため行けない方もおられる。
A 委員	集まる人は一緒でもいい。5人でも8人でもいい。場所も集会所でなくても誰かの家でいい。
C 委員	老人クラブが主体となってということか。
A 委員	サロン活動は社協が主体となっている。社協がお金を出してくれて、社協の事業である。
C 委員	集まる場所があればいいのにとはよく聞く。誰がするのかということができていない。
A 委員	家でやればいい。
E 委員	高齢の人も話す場所がないと聞くので、地域でどのように関わっていけばいいか。
A 委員	認知症の対策について、認知症のフォローはあるが、予防についての施策が見えてこない。そこにサロン、老人クラブの存在がある。
会 長	これからも幾度か会議があるため、そこでまたご意見頂ければと思う。地域で起こっている問題やどういことをやればいいのかは見えているが、支える人が不足していることが共通の課題だと思う。民生委員についても高齢化してきているため、なかなか後任が見つからない。では、それをどうするのか。アンケートの結果から見えているが、関心を持っている方はおられるがきっかけがつかめない。そういった方々のきっかけ作りを計画に反映することが必要である。また、関心を全く持っていない方に関心を持ってもらう働きかけも必要である。先日の八幡浜市の事件についてショックを受けた。こうした事件が起こったとき、隣近所の人は何かしらおかしいと気付いているものである。

	近所で気付いたことをどこに持っていくのか。より身近なところに気付きをキャッチするような場を作っていかなければならない。事が起こってからではなく、ちょっとした気付きを受け止める場づくりを検討することが必要である。地域包括か、もっと身近なものにするのか、ご意見箱等、もっと気軽にちょっとした気付きを連絡できるシステムを作らないと、地域の問題は難しいのではないだろうか。情報について、周知不足ということが見られる。情報を皆さんに知ってもらわないと地域にも関心を持たないし、活動にもつながらない。有効な情報の仕方について、社協にも限界があるだろうし、民生委員さんが1軒1軒周るのも大変であろう。どのようにして地域の様々な情報を一人でも多くの方々に周知して頂けるのか、いろいろ知恵を出し合い、多様な方法を考えていく必要があると思う。今後、具体的に計画を策定していくが、地域の方々の声をアンケート結果分析や住民座談会等でできる限り吸収し、計画に反映させていきたいと思っている。皆様方の忌憚のないご意見をお願いしたい。地域が住みやすい地域になることが最終的な到達目標である。
会 長	議事「(4)今後のスケジュールについて」事務局に説明を求める。
事務局	議事「(4)今後のスケジュールについて」説明する。
会 長	本日の議事をすべて終了
健康福祉部長	(閉会の挨拶)
事務局	【第1回地域福祉計画審議会の閉会】